

資料

点検評価票(評価対象年度:平成19年度)

点検評価項目(基本目標)名	1 喜びと誇りを実感できる生涯学習社会の創造	
郡山市総合教育基本計画における体系	郡山市総合計画における位置付け	
基本理念 創造性に富む心豊かなたくましい人づくり 基本目標 喜びと誇りを実感できる生涯学習社会の創造	大綱 2	ともに学び、ともに育み、未来を拓くまち
	基本施策 2	一人ひとりの学ぶ心を大切にすま
	施策 1	家庭教育の推進
		2 青少年の健全育成
		3 生涯学習の推進

取り巻く環境の把握	
現在の基本目標を取り巻く状況等	
<p>(1) 家庭教育は、すべての教育の出発点であり、家庭は常に子どものよりどころとなるものであるが、近年の核家族化や地域との結びつきの希薄化等により、子育てに不安を抱える保護者が増加しており、子育てや幼児教育支援事業等のニーズが高まっている。</p> <p>(2) 次代を担う子どもたちが健全でたくましい心を持つためには、そうした心が様々な人々との交流や地域社会における体験等を通して育まれることから、学校教育や家庭教育だけでなく、多様な学習の場や機会の提供が必要である。</p> <p>(3) 市民の価値観が多様化し、学習意欲も、ますます高まっていることから、いつでも、どこでも自由に機会を選択して学習できる生涯学習社会の構築が求められている。</p>	
将来の基本目標を取り巻く状況予測	
<p>(1) 核家族化、地域の結びつきの希薄化がさらに進展し、子育てに不安を抱える親は増加することが予測される。社会全体で家庭教育を支援していく体制、そして、地域における人間関係づくりと地域ぐるみでの支援の必要性が、いっそう高まるものと考えられる。</p> <p>(2) 高度情報化やグローバル化など、我が国を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、市民の生活においても核家族化や少子化、ライフスタイルの多様化などが一層進展すると考えられる。このような状況において、新しい時代に対応し、社会を生き抜く力を持った青少年の健全育成を推進するためには、家庭、学校、職場、地域、行政等がそれぞれの役割を發揮するとともに、連携した取り組みが必要になると思われる。</p> <p>(3) 21世紀においては、誰もが自らの能力と努力によって、自分の未来を切り拓くこともできる柔軟で活力ある社会が求められていることから、市民が“いつでも”“どこでも”学ぶことのできる生涯学習社会の実現に向けた取り組みは、一層その重要度を増すものと考えられる。</p>	

事務事業評価及び課題の抽出				
主 な 事 務 事 業 評 価	①基本目標の達成状況			
	<p>(1) 各学校や地域の実情に応じて内容の充実を図るとともに、報道機関等を通じた積極的な広報活動の結果、ほぼ計画通り事業を実施することができた。</p> <p>(2) 親子のふれあいや新成人の応援イベントの開催、各種青少年健全育成団体への支援、子どもたちの安全・安心な居場所の設置などにより、青少年の健全育成に貢献することができた。</p> <p>(3) 生涯学習の推進に関する事業は、おおむね計画通り実施できたが、中央公民館の「地区・地域公民館の定期講座開催事業」や中央図書館の「図書館業務電算事業」など、計画以上進捗したものもあった。</p>			
	②構成事務事業の達成状況			
		事務事業名	点検評価 達成状況 方向性	評価コメント
	1	家庭教育充実事業	B 継続	家庭教育学習会や講演会、就学前子育て講座などにより、家庭教育に係る学習機会の提供が図られた。
	2	子育てファイト支援事業	A 継続	健診場所に出向き実施したことにより、より多くの保護者へ子育て支援を図ることができた。
	3	子育てプチセミナー事業	B 継続	3歳児健診の場において、幼児のすこやかな成長を促すセミナーを実施することができた。
	4	就学時不安解消セミナー事業	C 改善	参加者の増加を図るため、子どもの発達に不安を持つ保護者が参加しやすいような手法の改善に取り組むとともに、保健所の各種検診等ともあわせて情報の共有化を図る必要がある。
	5	親子ふれあい自然体験事業	A 継続	90名の定員に対して、希望者が非常に多い状況である。また、参加者の半数は父親であり、普段はなかなかできない親子の触れ合いができたことと好評であった。
	6	家庭教育ふれあい推進事業	B 継続	子育てリーダーを育成するとともに活動支援者を設置、子育て中の参加者の相互交流を図ることができた。
7	幼児教育支援センター事業	B 継続	幼児教育に関する相談や情報提供など、保護者のニーズにこたえる支援事業が展開できた。	
8	人形劇フェスティバル	B 継続	アマチュアの人形劇団、読み聞かせ等の市民団体に発表の場を提供。更にプロの公演で子供たちに夢と感動を与えた。	
当 局 評 価	達成状況	方向性	達成状況	方向性
	B	継続	A 計画以上進捗した B 計画どおり進捗した C 計画未達成	拡充 継続 改善 休止
課 題 及 び 取 組 み 案	①基本目標の課題			
	<p>(1) 核家族化の進行や地域との結びつきの希薄化等により、子育てに対する保護者の悩みや不安も多様化すると考えられることから、それらに対応した細やかな事業の展開が求められる。</p> <p>(2) 少子化の進行や青少年を取り巻く環境の変化に伴い、青少年を対象とした各種事業の参加者確保が課題となっている。</p> <p>(3) 市民の多様化する生涯学習ニーズに対応した情報提供や魅力ある事業の企画等が課題となっている。</p>			
	②課題に対する取組案			
<p>(1) 開催日時や場所等、参加しやすい環境づくりをする。また、食育等の新しいテーマを取り入れ、魅力ある講座を設定する。</p> <p>(2) 魅力ある企画や参加しやすい日程など、事業内容の充実を図るとともに、事業の体系整理も検討する。勤労青少年ホームについては、施設の有無と事業を広くPRする。</p> <p>(3) 市民参画による講座の検討など、市民参画の視点に立った事業展開を行うとともに、PR等情報発信に努める。</p>				
③新規事業・拡充事業の必要性				
<p>(1) 市民の利便性を高めるために、こども課、保健所、総合教育支援センターでそれぞれに実施していた事業について見直し、保健福祉、教育の連携による乳幼児からの連続性のある家庭教育支援への取り組みを進める必要がある。</p> <p>(2) 青年層の早期退職者及びフリーターからの要望として、職業選択や資格取得にもつながる講座を実施する必要がある。</p> <p>(3) 市の事業に加え、県や近隣市町村、民間団体等が行う生涯学習関連事業についても、幅広く情報提供を行っていくことが考えられる。</p>				

構成事務事業の達成状況一覧

②構成事務事業の達成状況				
達成状況評価	事務事業名	点検評価		評価コメント
		達成状況	方向性	
	9 郡山市こどもまつり	B	継続	「こどもの日」に親子が無料で楽しめるイベントとして市民に定着し、青少年健全育成の貢献が図られた。
	10 郡山市成人のつどい	B	継続	企画委員会による式典及びアトラクションなど、参加しやすいイベント運営が図られた。
	留守家庭児童対策事業	B	拡充	未設置校からの設置要望が多いため、施設の設置方法を模索しながら、拡充に向けた取り組みを検討する必要がある。
	地域子ども教室事業	B	継続	ほぼ定員どおりの入会児童数を受け入れ、学校、保護者、地域住民の相互協力により、円滑に運営できた。
	11 教養講座開催事業	C	改善	受講者のニーズを把握し、講座内容を見直すとともに、対象の拡大や公民館との連携など、事業の改善について検討を要する。
	12 郡山市青少年健全育成推進協議会活動費	B	継続	協議会へ運営費を助成し、市民総ぐるみによる青少年の健全育成が図られた。
	13 少年教室(少年団体初級指導者研修会)	B	継続	小学5、6年生を対象にリーダーの育成を図った。参加者数は目標より少なかったが、参加者においては様々な活動を通して、自主性を育み、地域活動への意識向上を図ることができた。
	14 少年団体中級指導者研修会	B	継続	中学1、2年生を対象にリーダーの育成を図った。参加者は目標より少なかったが、ある程度は達成できた。
	15 青少年の国内交流事業	B	継続	青少年の県外相互交流体験事業を実施し、参加者においてはリーダーとしての資質の向上が図られ、また、県外の青少年との交流を行うことができた。
	16 少年団体リーダー研修会	B	継続	参加希望者が少なかったものの、参加者については交流及び親睦を深め、リーダーとしての資質向上を図ることができた。
	17 青少年団体育成事業	B	継続	青少年団体(4団体)へ運営費を助成し、各団体の円滑な活動の推進が図られた。
	18 青少年の奉仕活動等体験活動推進事業	B	継続	ボランティア募集や相談対応等により、活動を通じた青少年の人間性や社会性の醸成が図られた。
	19 青少年会館管理運営事業	B	継続	青少年の集団宿泊研修や団体活動の場を提供する施設として、適切な管理運営を図った。
	20 少年湖畔の村親子交流事業	B	継続	参加者数は計画値に満たなかったものの、体験活動を通して親子の絆を深めるとともに、施設の利用促進を図ることができた。
	21 生涯学習支援事業	B	継続	事業実施により、市民の学習活動を支援するとともに、学習の成果を生かす機会を提供することにより、市民による主体的な生涯学習が行われた。
	22 明るいまちづくり事業	B	継続	「花いっぱいコンクール」や危険箇所調査の実施などにより、地域の連帯意識の醸成が図られた。
	23 公民館建設事業	B	継続	当初の予定では平成19年度に大槻公民館建設を目標としていたが、行政センターとの複合施設「ふれあいセンター」として建設することとなった。
	24 公民館改修事業	B	継続	大島地区公民館については建築基準法の改正により完成には至らなかったが、順調に整備されている。
	25 第20回全国生涯学習フェスティバル事業	B	継続	平成20年10月予定の「全国生涯学習フェスティバル」開催に向け、視察及び準備会等が実施された。
	26 パソコンセミナー	B	継続	パソコン学習で使用能力の向上を目指す。
	27 地域に根ざした学習充実事業	A	継続	伝統文化の継承や子どもの体験活動、家庭教育支援、団塊の世代の地域参画等を通して、地域づくり等に取り組み、各事業において、一定の成果が得られた。
	28 図書館業務電算事業	A	継続	インターネットでの予約を開始したことにより、予約数が一年で約1.4倍となった。
	29 社会教育団体育成事業	B	継続	社会教育団体へ運営費を助成し、活動の支援を図った。
	30 公民館分館整備事業	B	継続	主要な整備は平成18年度で完了しており、他施設整備との優先度を検討した結果、平成19年度は整備を実施しなかった。
	31 中央公民館耐震化事業	B	継続	耐震診断結果に基づき、耐震補強工事を行うとともに、事務室改修工事を実施した。
	32 勤労青少年ホーム耐震化事業	B	継続	耐震診断結果に基づき、耐震補強工事を実施した。
	33 郡山市文化講演会	B	継続	文化意識の高揚と文化活動の振興を図る。
	34 公民館職員等研修事業	A	継続	地域的課題・現代的課題に対応した講座を企画する公民館職員が増加した。公民館の中には、全国先進事例への選出や国や県の表彰を受賞する等、高い評価を得るケースもあった。
	35 市民文化作品展	B	継続	市民の創作作品を展示し、鑑賞することにより文化意識と創作意欲の向上させる。
	36 子どもの読書活動推進事業	B	継続	「図書館フォーラム」「読書活動推進講座」「ボランティア養成講座」をそれぞれ開催した。
	37 図書館分館整備事業	B	継続	西田分館をオンライン化したことにより、約3.5%(4,000冊)の利用増が図られた。
	38 図書館奉仕活動事業	B	継続	前年分の貸出冊数を維持できた。
	39 地区・地域公民館の共催事業	B	継続	関係機関の協力のもと、教養や体力増進の事業を実施する。
	40 地区・地域公民館の定期講座等開催事業	A	継続	各公民館において、多種多様な講座を開催しており、新規来館者や新規サークルが増加した。
	41 中央公民館共催事業	B	継続	関係機関の協力のもと、教養や体力増進の事業を実施する。
	42 中央公民館の定期講座開催事業	B	継続	教養の向上、健康増進に講座を開催することにより生活文化の向上と社会福祉の増進を図る。
	43 資料整備事業	B	継続	ほぼ例年どおりの購入冊数(37,600冊)を確保できた。
	44 図書館施設・設備整備事業	B	継続	非常用放送設備の改修を実施した。
	45 図書館管理運営事業	B	継続	開館時間の延長を試行した。
	46 図書館協議会事業	B	継続	先進地視察(札幌、青森)を実施した。
	47 貸出教材等整備事業	B	継続	視聴覚機材・教材の継続的な整備により、計画以上に貸出件数を伸ばすことができた。
	48 視聴覚センター管理運営事業	B	継続	市民映画会・子ども映画会・音楽ミニコンサートをそれぞれ毎月一回ずつ上映しており、大変好評を得ている。

点検評価票(評価対象年度:平成19年度)

点検評価項目(基本目標)名	2 子どもたちの夢が未来に広がる学校教育の創造
郡山市総合教育基本計画における体系	郡山市総合計画における位置付け
基本理念 創造性に富む心豊かなたくましい人づくり 基本目標 子どもたちの夢が未来に広がる学校教育の創造	大綱 2 とともに学び、ともに育み、未来を拓くまち 基本施策 1 個性を伸ばし生きる力を育む教育のまち 施策 1 学校教育の推進 2 教育環境の充実

取り巻く環境の把握
現在の基本目標を取り巻く状況等
(1) 国際化や情報化、少子高齢化の進展によって、市民の価値観が多様化し様々な問題や変化が生じている状況にあつて、心身ともに健康で、確かな学力を身につけた児童生徒を育成するために、地域に開かれた信頼される学校教育が求められている。 (2) 少子化が進行し、児童生徒の学習環境も地域間で変化しているが、どの地域の児童生徒も学校教育により将来において能力が発揮できる力を身につけられる環境づくりが重要である。
将来の基本目標を取り巻く状況予測
(1) 社会構造の複雑化がさらに進む中、児童生徒が変化する社会構造に対応していくために、学校教育において「生きる力」を育む必要性はさらに高まるものと予想される。 (2) 中心市街地・周辺市街地・農村部において、教育環境の学校間格差が広がることが予想される中、地域に開かれ、地域の特色を活かした学校づくりが重要となっていく。

事務事業評価及び課題の抽出

主な事務事業評価	①基本目標の達成状況				
	(1) 全般に、ほぼ計画どおりに事業を進めることができた結果、子どもたちの夢が未来に広がる学校教育の創造を推進することができた。奨学資金給与事業については、制度がさらに有効に活用されるよう、周知方法など改善の余地があった。 (2) 学校教育施設の大規模改修や耐震補強等のハード面での整備を図る一方、複式学級の解消やスーパーティーチャーの配置等、ソフト面を充実させることができ、ほぼ計画どおりに教育環境の整備を進めることができた。				
	②構成事務事業の達成状況				
		事務事業名	点検評価		評価コメント
			達成状況	方向性	
	1	教育内容・方法の充実事業	B	継続	時代を担う子どもたちに郷土の歴史や文化を体験する活動を通して、郷土の誇りと愛する心を育てる。
	2	国際化推進人材育成事業	B	継続	高度なコミュニケーション能力や国際人としての感覚を磨き、21世紀を担う国際人として活躍しうる人物を育成する。
	3	奨学資金給与事業	C	改善	応募要件を分かりやすく対象者に周知し、制度が有効活用されるよう改善を検討する必要がある。
	4	小中学校英語教育特区推進事業	B	継続	語学指導外国人を各小中学校に派遣し、児童生徒のコミュニケーション能力の向上及び国際教育の推進を図る。
	5	小中学校特別支援教育派遣事業	B	継続	特別支援教育補助員・学校生活支援員の配置を必要とする小中学校へ、実態・状況を把握し効果的な配置を行う。
	6	水と緑の学校音楽振興事業	B	継続	市内小中学校、高等学校の合唱・合奏の音楽活動振興を図り、心豊かで感性に富む児童生徒を育成する。
	7	特色ある学校づくり推進事業	B	継続	各小中学校の自主的・自立的な取り組みにより、地域人材の活用などを通して「特色ある学校づくり」を目指す。
	8	スクールカウンセラー配置事業	B	拡充	配置校においては、スクールカウンセラーの有効活用が図られ、問題行動の解決、改善に成果を挙げている。
	9	学校教育活動支援事業	B	継続	子どもたちが、エネルギー消費や科学技術開発等への興味・関心や知識・理解を深めることができるようにする。
10	学習指導計画書作成事業	B	休止	次回の教科用図書採択まで本事業については一時休止とする。(小学校:平成22年度、中学校:平成23年度採択予定)	
11	基礎学力向上支援事業	B	継続	郡山市立小学5年、中学2・3年について学力テストを実施し、結果を自校の学力向上の取り組みに生かす。	
12	教育研究助成事業	B	継続	市立小・中学校教員が行う教育研究事業に対し、補助金を交付する。	
13	教科用図書採択事業	B	休止	次回の採択まで本事業については一時休止とする。(小学校:平成22年度、中学校:平成23年度採択予定)	

当局評価	達成状況	方向性	達成状況	A 計画以上進捗した B 計画どおり進捗した C 計画未達成	方向性	拡充 継続 改善 休止	市民ニーズの高まり等により、事業を拡大することが適当なもの 現在のとおり継続することが適当なもの 対象、手段の見直しにより、成果が向上すると判断されるもの 一時的に休止がやむを得ないと判断されるもの
	B	継続					

課題及び取り組み案	①基本目標の課題
	(1) 基礎学力の向上、障がいをもつ児童生徒へのきめ細かな支援、学校不適應やいじめ、虐待など児童生徒を取り巻く諸問題への相談体制の整備等が課題となっている。 (2) 現在の社会情勢から、小中学校の耐震化の促進や児童生徒の安全・安心の確保に対するニーズが特に高まっている。
	②課題に対する取組案
③新規事業・拡充事業の必要性	(1) 教師の指導力向上に努めるとともに、児童生徒を精神面からサポートするため、本市独自の認定カウンセラーを養成し、小中学校への配置を進める。 (2) 地域で児童生徒を見守る体制づくりなど、地域との連携により事業を促進する。
	(1) 「教師塾・授業づくりサポート事業」において、外部講師の活用等実施体制の充実を図る必要がある。 (2) 「小中学校耐震補強事業」「児童安全安心推進事業」について、継続して事業に取り組んでいく必要がある。

構成事務事業の達成状況一覧

②構成事務事業の達成状況				
	事務事業名	点検評価		評価コメント
		達成状況	方向性	
達成 状況 評価	14 社会奉仕体験活動推進事業	B	継続	学校が独自に児童生徒のボランティア体験活動を、関係機関との連携により実施する。
	15 学校体育指導事業	B	継続	学校体育資料作成委員会、学校保健作成委員会で作成した教材資料を配布し、指導の充実を図った。
	16 指導主事研修事業	B	継続	研修に参加することにより、管理主事等教職員担当幹部職員の資質向上を図ることができた。
	17 教師塾・授業づくりサポート事業	A	継続	試行的な取り組みであったが、指導力向上を目指す意欲的な教員が多数参加し、大きな成果をあげた。
	18 教育研修に関する事業	B	継続	初任研・10年研の対象者の減少により延べ参加者数は若干減少したが、研修内容は年々充実し成果をあげている。
	19 心の教育支援事業	B	継続	各事業において、対象児童生徒の改善状況や参加の状況等により、それぞれに概ね目標を達成できたと考えられる。
	20 校舎・屋内運動場増改築事業	B	継続	計画通り実施し、良好な教育環境、耐震性の確保に寄与した。
	21 小中学校校舎リフレッシュ事業	B	継続	計画通り実施し、老朽化施設の中規模改修を行い、教育環境の整備が図られた。
	22 小中学校校庭遊具等環境整備事業	B	継続	計画通り実施し、安全・安心な、健全な遊びの環境を確保した。
	23 小中学校耐震補強事業	B	継続	計画どおり実施したが、本事業に対する要望は、今後も高いレベルを維持すると予想される。
	24 小中学校大規模改造事業	B	継続	耐震補強と同時に老朽化対策工事も行い、教育環境の向上に寄与した。
	25 スーパーティーチャー(教科専門員)派遣事業	A	継続	教科に精通している職員がいない学校にスーパーティーチャー(小学校の理科、中学校の美術、技術、家庭科の教科専門員)を派遣し、学習指導の充実を図ることができた。
	26 児童生徒安全安心推進事業	B	継続	各団体の不審者警戒ステッカー表示協力や、児童生徒への防犯ブザーの配付により、被害事故の未然防止を図る。
	27 小中学校の一貫した教育推進事業	B	継続	明健中学校と、湖南小中学校の小中一貫教育について検証をし、小中の効果的な連携方法への資料とする。
	28 スクールバス運行事業	B	継続	3校で計画通り実施し、「遠距離から通学することとなった児童生徒の通学手段の確保」という目的は果たしている。
	29 遠距離通学費補助事業	B	継続	計画どおり予算措置されたため、すべての申請者に対して補助を行うことができた。
	30 学校図書館整備事業	B	継続	蔵書数が標準冊数を充たし、こどもたちがより多くの情報を得られやすい環境づくりができた。
	31 学校用務員業務民間委託事業	B	継続	退職者数に応じて委託校数が増えた結果、人件費等が削減できた。
	32 教卓更新事業	B	継続	計画どおり実施し、環境に対する児童・生徒の意識を育てることに寄与した。
	33 校庭整備事業	B	継続	平成19年度については、他施設整備等との優先順位を考慮した結果、整備には着手できなかったものの、冠水被害等の調査に基づき、整備の優先順位を考慮した計画を立て実施している。
	34 小中学校プール築造事業	B	継続	体育施設の安全性確保のため、緊急性及び優先度を明確にしながら、継続して整備を実施する必要がある。
	35 小中学校の全国音楽祭参加支援事業	A	継続	4校分の参加支援を行い、保護者の経済的負担軽減を図ることができた。
	36 複式学級解消事業	B	継続	通常複式学級を有する小学校に、市単独で非常勤嘱託職員を配置し、きめ細かな学習指導・生徒指導の充実を図る。
	37 教育用コンピュータ整備事業	B	継続	PCやソフトウェアの充実により、児童生徒の学習効果を上げるとともに、校務整理の効率化を図ることができた。
	38 小中学校教育環境整備事業	B	継続	計画どおり事業を実施し、ピアノ、放送機器等の更新を行い、教育環境の維持・充実が図られた。
	39 小中学校施設環境整備事業	B	継続	プール、給食環境、トイレ、保健室等の老朽化による機能低下、破損等について改修を行った。
	40 小中学校図書館司書補給与等補助事業	B	継続	計画通り実施したが、今後とも未設置校への働きかけを行う必要がある。
	41 理科教育設備整備事業	B	継続	目標値とする現有率にほぼ到達し、設備の面から科学的知識・技能の習得を支援できた。
	42 少年サポートチーム推進事業	B	継続	犯罪の低年齢化が進み早期の対応が求められる中で、学校と関係機関、教育委員会の緊密な連携の下開催する。
	43 学校評議員推進事業	B	継続	保護者や地域住民の意見を広く聞き、反映させることで開かれた学校運営に貢献することができた。
	44 教育施設生ごみ再利用処理機設置事業	B	継続	中学校給食センターは未設置のままだが、設置済みの機器については計画どおり維持管理業務を行った。
	45 学校保健会郡山支部補助金	B	継続	研究会、講習会を実施し小中学校養護教諭の資質向上を図った。
	46 小・中学校環境衛生保全事業	B	継続	教室等の空気環境検査を実施し、室内の環境保全の指導・対策検討を行った。
47 小学校給食施設・設備整備事業	B	継続	学校給食を安全かつ衛生的に実施するため、施設・設備整備を行った。	
48 中学校給食施設・設備整備事業	B	継続	学校給食を安全かつ衛生的に実施するため、施設・設備整備を行った。	
49 中学校給食センター管理運営事業	B	継続	安全にかつ衛生的に業務が図られるよう、計画的に給食物品の更新・修繕を行った。	
50 給食センター維持補修事業	B	継続	安全にかつ衛生的に業務が図られるよう、計画的に給食施設の修繕を行った。	
51 IT交流学习システム整備事業	B	継続	明健中と3小学校との交流授業や情報交換等で有効に活用された。	
52 視聴覚機器等整備事業	A	継続	視聴覚センターの事業として、パソコン講座や市民映画会等の参加者数が大幅に増加した。	
53 夢、学びが広がる情報教育推進事業	B	継続	プロジェクター周辺機器の充実を図るとともに、ソフトウェアの一括購入等でコストを抑え有効活用がなされた。	

点検評価票(評価対象年度:平成19年度)

点検評価項目(基本目標)名	3 ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーションの振興
郡山市総合教育基本計画における体系	郡山市総合計画における位置付け
基本理念 創造性に富む心豊かなたくましい人づくり	大綱 2 とともに学び、ともに育み、未来を拓くまち
基本目標 ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーションの振興	基本施策 4 スポーツを楽しみ新たな自分にチャレンジできるまち
	施策 1 生涯スポーツ・レクリエーションの振興

取り巻く環境の把握

現在の基本目標を取り巻く状況等
生活スタイルの多様化、週休二日制の普及、生活水準の向上、余暇時間の増大等に伴い、スポーツ・レクリエーション活動に対する関心が高まり、活発なスポーツ活動が行われるようになってきている。
将来の基本目標を取り巻く状況予測
スポーツ・レクリエーション活動は、市民の健康の維持増進、豊かな人間関係づくり、地域社会づくりを進めるうえで大きな役割を果たしていることから、多くの市民が生涯を通じてスポーツ・レクリエーション活動ができる環境を整備し、生涯スポーツの振興を進める必要性は高まっていくものと思われる。

事務事業評価及び課題の抽出

主な事務事業評価	①基本目標の達成状況				
	郡山シティーマラソン大会は、年々大会参加者が増加しており、市民の間に定着しつつある。その他の事業についてもおおむね計画どおりの達成状況であり、ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーションの振興を図ることができた。				
	②構成事務事業の達成状況				
	事務事業名		点検評価		評価コメント
			達成状況	方向性	
	1	アイススケート等振興事業	B	継続	スケート教室、カーリング教室・大会を計画通り開催することができた。冬季スポーツの振興が図られた。
	2	クレー射撃場整備事業	B	継続	候補地の現況調査や他市状況調査を実施し、整備について調査研究をすることができた。
	3	スポーツ広場整備事業	B	継続	整備に向けた候補地調査を行ってきたが、未だ決定していない。
	4	開成山野球場整備事業	B	拡充	整備に向けたPDB審査委員会の開催等、計画通り開催することができた。
	5	郡山カップ福島県フットサル選手権大会支援事業	B	継続	幅広い年代で楽しめるスポーツとしてフットサルは有効であり、大会の開催により生涯スポーツ社会の進展に一助となっている。
	6	郡山シティーマラソン大会	A	継続	参加者が増加し、大会の充実が図られ施策の達成に向けた事業が展開できた。
	7	市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会支援事業	B	継続	市陸上競技協会と連携しながら総合優勝することができ、競技力の向上に大きな役割を果たせた。
	8	スポーツ・レクリエーション推進事業	B	継続	スポーツレクリエーション祭の開催など、生涯スポーツの振興及び市民の健康の保持増進に貢献することができた。
	9	スポーツリーダーバンク事業	B	継続	他市の状況調査を実施し、事業のメリット・デメリットや手法など調査検討段階である。
10	スポーツ事業開催・助成事業	B	継続	計画通り開催することができ、生涯スポーツの振興として各種協議の普及や競技力の向上を図ることができた。	
11	スポーツ振興審議会事業	B	継続	審議すべき事項がなかったため、平成19年度は審議会を実施しなかった。	
12	ふるさとの森スポーツパーク整備事業	B	継続	要望、意見等を調整し、検討を継続している。	
13	運動場夜間照明施設整備事業	B	継続	既に計画は達成しているが、今後既存施設の利用状況や要望等を踏まえ、計画していく。	
当局評価	達成状況	方向性	達成状況	方向性	
	B	継続	A 計画以上進捗した B 計画どおり進捗した C 計画未達成	拡充 継続 改善 休止	
市民ニーズの高まり等により、事業を拡大することが適当なもの 現在のとおりに継続することが適当なもの 対象、手段の見直しにより、成果が向上すると判断されるもの 一時的に休止がやむを得ないと判断されるもの					

課題及び取組み案	①基本目標の課題
	中高年層を中心にスポーツ活動に対する関心が高まっているため、生涯を通じて気軽にスポーツ活動ができる環境の整備が必要である。
	②課題に対する取組案
	現在、開成山地区スポーツ施設の一体的整備に取り組んでおり、これら施設の整備と、誰もが気軽に参加できる総合型スポーツクラブの育成支援や、指導者の確保、育成を図る。
	③新規事業・拡充事業の必要性
	「開成山野球場整備事業」は、市民のスポーツ振興を図るうえで重要な事業であり、早期完了に向けて、積極的な取組みを図る必要がある。

点検評価票(評価対象年度:平成19年度)

点検評価項目(基本目標)名	4 魅力ある市民文化の創造
郡山市総合教育基本計画における体系	郡山市総合計画における位置付け
基本理念 創造性に富む心豊かなたくましい人づくり	大綱 2 とともに学び、ともに育み、未来を拓くまち
基本目標 魅力ある市民文化の創造	基本施策 3 歴史と文化、そして音楽にふれて豊かなときを感じるまち
	施策 1 文化財の保存と活用
	2 文化芸術活動の推進

取り巻く環境の把握

現在の基本目標を取り巻く状況等

(1) 本市には、古代のロマンを今に伝える大安場古墳、本市発展の礎となった安積開拓に係る遺産、さらに、柳橋歌舞伎などの民俗文化財など郷土が誇れる貴重な文化財が数多くある。
 (2) 文化芸術振興基本法が施行されるなど、地域特性を生かした文化の振興が求められてきており、ソフト事業については、従来の鑑賞型事業に加え、市民参加型、発表型事業への市民ニーズが高まってきている。

将来の基本目標を取り巻く状況予測

(1) 地域社会や生活様式等の変化により、民俗芸能、風俗習慣及び伝統技術が失われつつある中で、近年、地域において文化財の保存・継承や、その価値を学ぼうとする動きが見られる。
 (2) 本市においては、音楽都市を全国に発信するなど、今後一層、本市の地域特性を生かした文化の振興が求められる。

事務事業評価及び課題の抽出

①基本目標の達成状況

(1) 国指定史跡の大安場古墳の復元を行い史跡公園として整備する「大安場古墳史跡整備事業」が計画通り進捗したのをはじめ、伝統文化等の継承に関する事業も含め、文化財の保存と活用に関する事業をほぼ計画どおり実施できた。
 (2) 市民の自主的な文化芸術活動の推進を図るとともに、市立美術館や市民文化センターをはじめとして、ふれあい科学館やこおりやま文学の森資料館などの文化施設等を有効に活用し、文化芸術活動に関する事業も計画どおり進めることができた。

②構成事務事業の達成状況

事務事業名	点検評価		評価コメント
	達成状況	方向性	
1 開成館企画展示事業	B	継続	企画展「牛庭原を拓いた人々と安積開拓」を開催、県民の日茶会の開催等実施した。
2 指定文化財保護育成事業	B	継続	無形民族文化財、指定文化財それぞれの保存団体(計29団体)への支援を行った。
3 大安場古墳史跡整備事業	B	継続	古墳整備及びガイダンス施設建設は共に平成21年4月オープンに向け予定どおり進捗している。
4 埋蔵文化財周知紹介事業	B	継続	文化財企画展の開催、考古歴史資料の展示、小・中学校の学習サポートの実施が予定どおり行えた。
5 歴史資料館管理運営事業	B	継続	2度の史跡めぐりや古文書教室の開催、「黒船が来た」の企画展等を実施した。
6 こおりやま文学の森資料館管理運営事業	B	継続	施設の管理運営、事業の展開が計画に基づきスムーズに実施された。
7 ふれあい科学館管理運営事業	B	継続	施設の管理運営、事業の展開が計画に基づきスムーズに実施された。
8 音楽堂整備事業	B	継続	音楽関係団体の実態調査等を実施し、計画を達成した。
9 久米賞・百合子賞共催事業	A	継続	ポスターやチラシによる啓発の拡充及び学校を通じての対象者への周知の徹底により、応募者数も計画以上に増加した。
10 市民文化センター管理運営事業	B	継続	施設の管理運営、事業の展開が計画に基づきスムーズに実施された。
11 文化芸術振興事業	B	継続	水と緑の全国音楽祭、ふれあいコンサート、トップコンサートの実施に加え、新たにホールコンサートを実施した。
12 美術館活動推進事業	B	継続	市民のニーズにできるだけ、応えられるように企画展等を立案しているが、来館者数は、未知数の要素が高く、実技講座等については、講座数により増減する。
13 開成館管理運営事業	B	継続	入館者数の目標達成はならなかったものの、歴史や伝統文化に触れる場の提供ができた。
14 古文書筆耕事業	B	継続	計画していた筆耕冊数を達成した。

当局評価	達成状況	方向性	達成状況	方向性	拡充 継続 改善 休止	市民ニーズの高まり等により、事業を拡大することが適当なもの 現在のとおり継続することが適当なもの 対象、手段の見直しにより、成果が向上すると判断されるもの 一時的に休止がやむを得ないと判断されるもの
	B	継続				

①基本目標の課題

(1) 市民が郡山の歴史と文化の正しい理解を深めるためにも、将来的な文化財保護保存の取り組みが必要である。
 (2) 市民の文化活動は活況であり、その参加者数は、増加しているが、更に施策を推進するために事務事業を周知するなどの情報発信が必要となっている。

②課題に対する取組案

(1) 文化財の保護保存の意識の高揚を図るため、情報等の提供をする。
 (2) 鑑賞・発表の機会を増やし参加者数の増加を図り、市民の参加しやすい環境を創るとともに、さまざまな機会をとらえた積極的なPRに努める。

③新規事業・拡充事業の必要性

「音楽都市こおりやま」の振興を図るため、平成20年度から、「文化芸術振興事業」の一部を「音楽振興事業」として分離し、拡充を図っていく。

